

紀泉高原鳥獣保護区

鳥獣保護区更新調査業務 報告書

令和5年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

目次

1. 調査の目的.....	2
2. 調査区域及び調査対象.....	2
3. 調査内容.....	2
4. 調査地の概要及び環境.....	3
5. 調査方法.....	4
6. 調査結果.....	6
6-1 現地調査結果.....	6
6-2 文献・資料調査結果.....	14
7. まとめ.....	19
8. 参考文献.....	233

1. 調査の目的

この調査は、紀泉高原鳥獣保護区の存続期間の更新等についての検討資料とするため、その地域における野生鳥獣の生息状況など地域の自然環境に関する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査区域及び調査対象

紀泉高原鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等を調査対象とする。紀泉高原鳥獣保護区の範囲は図 2-1 に示す。



図 2-1 紀泉高原鳥獣保護区の範囲

3. 調査内容

現地調査及び既存データの整理により、下記の事項を把握する。

- ・ 鳥獣生息状況（リスト作成）、特色
- ・ 利用状況（施設利用者数など）

4. 調査地の概要及び環境

紀泉高原鳥獣保護区は、大阪府と和歌山県を隔てる和泉山脈の西部に位置し、南側は和歌山県に接する。当該区域は、阪南市、岬町及び和歌山県和歌山市にまたがって国有林に指定されており、この内大阪府側の全域と和歌山県側の一部区域が鳥獣保護区に指定されている。大阪府側の保護区の面積は約 305ha である。範囲内に鳥取池等の開水面があるが、そのほかは山林となっている。鳥取池周辺はネジキやアラカシ、コナラなどの2次林になっているが、その周辺部の斜面の多くはスギやヒノキの植林が広がり、ソヨゴやヤブニッケイ、ヒサカキ、ツブラジイなどが混ざっている。尾根筋は乾燥しているためにコシダなどが下草として茂り、アカマツやコナラ、ソヨゴ、ネズミサシなど乾燥に強い樹種が低木林を作っている。

鳥獣保護区内では、特に一等三角点を持つ俎石山や大福山は、自然度の高い山として人気が高まり、登山道も整備され、ハイキング、森林浴や憩いの場として、またこの鳥獣保護区に隣接する鳥取池キャンプ場を利用するために、多くの府民に利用されている。

このように、紀泉高原鳥獣保護区は野鳥だけでなく府民にとっても良好な自然環境を維持している地域であり、生物多様性の観点からも重要な地域を含む保護区といえる。

5. 調査方法

調査は、現地調査および文献調査により実施した。

また、現地調査及び文献調査により確認された種から表 5-2 の基準により重要種を抜粋した。

表 5-1 重要種の選定基準

選定基準
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）
環境省レッドリスト 2020（環境省 RL）
大阪府レッドリスト 2014（大阪府 RL）

●現地調査

現地調査は、ラインセンサス法と定点観察、任意観察を実施した。調査時期は、繁殖期、秋期（秋の渡りの時期）及び越冬期とした。

ラインセンサス法では、調査ルートを約 2km/h の速度で歩き、片側 25m 両側合わせて 50m の範囲の鳥獣を記録した。調査ルートは、鳥取池北東端から鳥取池北側沿いの登山道を歩き、俎石山へ登る登山道入り口に至るルート R1（2.29km）、俎板山登山道を紀泉高原の尾根に上がった地点から尾根筋を俎石山経由で大福山まで歩くルート R2（2.15km）を設定した。

定点観察では、調査定点に 10 分間滞在し、確認された鳥類を記録した。調査地点はラインセンサス R1 東端の鳥取ダム上 P1、ラインセンサス R2 南端の大福山山頂 P2 の 2 地点を設定した。

各ルート及び定点の位置は図 5-1 に示すとおりである。

任意観察では、ラインセンサス法、定点観察法ではとらえにくい種を確認できる地域を中心に探索した。主な対象地はラインセンサスの R1 と R2 をつなぐ登山道等である。

●文献調査

文献調査は、表 5-2 の文献により実施した。なお、本地域は日本野鳥の会大阪支部の観察会は実施されておらず、調査エリアでの鳥獣の記録はほとんどないため、文献調査として、鳥取池で以前より定期的な観察会を行っている「自然と本の会」の記録の聞き取り調査を行った。

表 5-2 参考文献・参照資料

文献 No.	文献・情報名	発行または実施年・発行者
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	平成 29 年 日本野鳥の会大阪支部
文献 2	「自然と本の会」聞き取り調査	令和 5 年 6 月 9 日
文献 3	泉南けもの道 第 17 回 正真正銘のけもの道の果て・鳥取池（阪南市桑畑）でアカゲラとヤマセミを見た。	平成 30 年 大阪鳥類研究グループ会報第 130 号

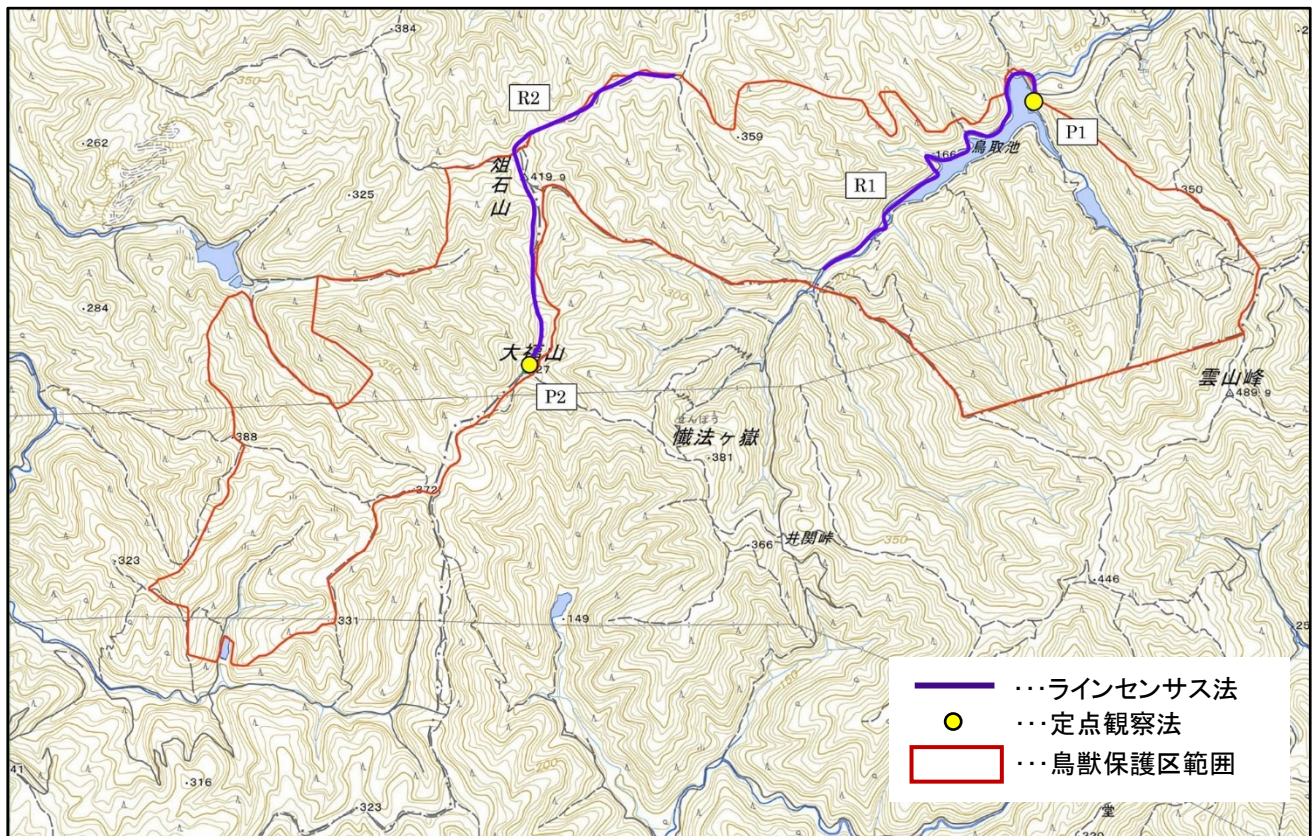


図 5-1 調査地点

6. 調査結果

6-1 現地調査結果

① 調査時期・天候・時間

現地調査時期、天候、調査時間を表 6-1 に示す。

表 6-1 調査時期・天候・調査時間

調査時期	調査日時	天候	調査時間	
繁殖期	令和 5 年 6 月 3 日	曇りのち晴れ	P2	8:32～8:42
			R2	8:42～9:20
			任意	10:20～11:00
	令和 5 年 6 月 26 日	小雨	P1	8:00～8:10
			R1	8:10～9:00
秋期	令和 5 年 9 月 29 日	晴れ	P1	8:00～8:10
			R1	8:10～8:55
			任意	8:55～9:50
			R2	9:50～10:44
			P2	10:44～10:54
越冬期	令和 5 年 12 月 8 日	晴れ	P1	8:45～8:55
			R1	8:55～9:55
			任意	9:55～10:53
			R2	10:53～11:03
			P2	11:03～12:20

② 鳥類確認種

現地調査の結果、10 目 26 科 45 種の鳥類を確認した。確認種の一覧を表 6-3 に示す。

現地調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 25 種、夏鳥 9 種、冬鳥 7 種、旅鳥 2 種、外来種 2 種であり、留鳥 56%、夏鳥 20%、冬鳥 16%、旅鳥 4%、外来種 4%と、一年を通してみられる留鳥が半数を占めた（表 6-2、図 6-1）。渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。

なお、大阪府鳥類目録で旅鳥（一部夏鳥）とされているコサメビタキについては、秋の渡り期にのみ確認されたことから旅鳥として扱った。

また、サンショウクイは夏鳥に分類しているが、近年生息地を北上させている南方系の亜種リュウキュウサンショウクイが冬季のみ確認されている。

表 6-2 渡り区分ごとの種数とその割合

渡り区分	種数	割合
留鳥	25 種	56%
夏鳥	9 種	20%
冬鳥	7 種	16%
旅鳥	2 種	4%
外来種	2 種	4%
合 計	45 種	100%

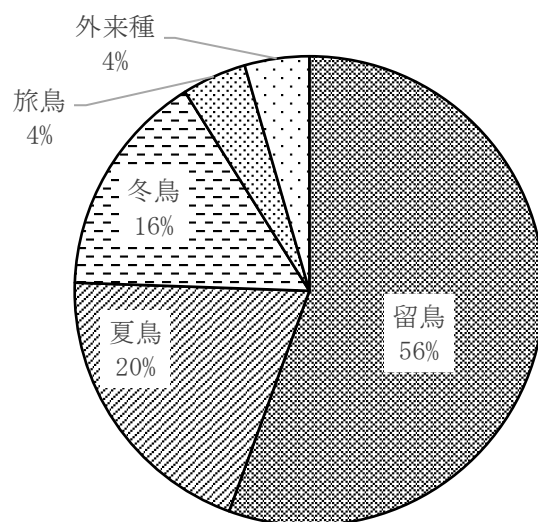


図 6-1 現地調査 渡り区分の内訳

表 6-3 現地調査 鳥類確認種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	繁殖期	秋期	越冬期	渡り区分
1	カモ	カモ	<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ			○	冬鳥
2	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	留鳥
3	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○		留鳥
4	ペリカン	サギ	<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○			留鳥
5	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○			夏鳥
6			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○			夏鳥
7	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○			留鳥
8		タカ	<i>Milvus migrans</i>	トビ			○	留鳥
9			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○	留鳥
10			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	留鳥
11			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	冬鳥
12	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○			留鳥
13	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	留鳥
14			<i>Picus avokera</i>	アオゲラ	○	○	○	留鳥
15	スズメ	サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○	夏鳥
16		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○			夏鳥
17		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ			○	留鳥
18		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス		○		留鳥
19			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	留鳥
20		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	留鳥
21			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ			○	留鳥
22			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	留鳥
23		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	留鳥
24		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	留鳥
25			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○	○		夏鳥
26		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	留鳥
27		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○			旅鳥
28			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○			夏鳥
29		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	留鳥
30		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○			留鳥
31		ヒタキ	<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○			夏鳥
32			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ			○	冬鳥
33			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ			○	冬鳥
34			<i>Phoenicurus auroreus</i>	ジョウビタキ			○	冬鳥
35			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		○		旅鳥
36			<i>Ficedula nareissina</i>	キビタキ	○			夏鳥
37			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○			夏鳥
38		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○		○	留鳥
39		アトリ	<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ			○	留鳥
40			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ			○	冬鳥
41			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○		留鳥
42		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○			留鳥
43			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ			○	冬鳥
44	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ		○		外来
45	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○	外来
合計	10 目	26 科	45 種		28 種	17 種	26 種	—

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。

③ 鳥類の繁殖状況

繁殖期調査において確認された種について、全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（NPO 法人バードリサーチ、<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）に準じて繁殖可能性を判断した（表 6-4）。

繁殖期調査において 28 種が確認された。このうち、カワウ、アオサギ、オオムシクイの 3 種を除く 25 種については、いずれも繁殖ランク C に該当し、調査範囲及びその周辺で繁殖している可能性が認められた。カワウとアオサギについては、集団で繁殖する習性をもつため繁殖していれば営巣場所（コロニー）が確実に確認できるが、そのようなコロニーが確認できなかった。オオムシクイについては、知床半島とその周辺部でしか繁殖せず、渡りの時期がとても遅いため、繁殖の可能性はないと考えられる。

繁殖の可能性がある 25 種のうち、21 種は現地調査において繁殖を示唆する行動が確認され（繁殖ランク B）、調査範囲内で繁殖している可能性が高い。さらに、カワセミとキビタキの 2 種で繁殖を確認できた（繁殖ランク A）。なお、キビタキは、繁殖ランク A 及び B いずれの記録もあるため、繁殖ランク A 及び B に該当する種数は 22 種である。

表 6-4 鳥類の繁殖状況

ランク	観察コード	観察事項	該当種
A (繁殖を確認) 2 種	21	巣からほとんど移動していないと思われる巣立ちビナを見た	カワセミ、キビタキ
B (繁殖の可能性が高い) 21 種	30	その種が営巣し得る環境で繁殖期に、その種のさえずり（キツツキ類のドラミングを含める）を聞いた。ただし、その鳥が冬鳥、旅鳥かもしれない時は除く	キジバト、ホトトギス、ツツドリ、コゲラ、アオゲラ、サンコウチョウ、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、ミソサザイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリ、イカル、ホオジロ、ソウシチョウ
	37	成鳥がヒナへの餌を運搬しているが、巣が周囲にあるかどうか分からない	ミサゴ
	40	家族群を見た	シジュウカラ、エナガ
C (繁殖の可能性あり) 3 種	50	その種が営巣し得る環境で繁殖期にその種を確認したが、他には繁殖の兆候が認められない。ただし冬鳥または旅鳥は過去にその地方で繁殖の記録があるもの	ハシブトガラス、ヒヨドリ、キセキレイ

※全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク（2014,NPO 法人バードリサーチ <https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>）を参照し、該当箇所を抜粋して作成した。

④ ラインセンサス法による鳥類の生息個体数

ラインセンサスによる調査の結果、10 目 23 科 35 種 511 羽の鳥類を確認した。各ルートにおける調査回ごとの記録種及び個体数を表 6-5 に示す。R1 では 30 種 359 羽、R2 では 21 種 152 羽を確認した。R1 は鳥取池の湖畔の山道がルートとなっているため、森や林の鳥だけでなく、キンクロハジロやカワウ、アオサギ、カワセミのような水辺の鳥も記録した。R2 は乾いた尾根筋の道がルートとなっており、樹種数が少なく林相が単調なため、記録される鳥は少なかったが、高所を飛ぶミサゴやトビなどが記録できた。また、6 月頃に本州を通過して繁殖地に向かうオオムシクイの囀りも記録した。この他、外来種のコジュケイやソウシチョウもよく記録できた。

表 6-5 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名	R1				R2				総計	
				繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計		
1	カモ	カモ	キンクロハジロ			1	1					1	
2	ハト	ハト	キジバト		4		4		2		2	6	
3	カツオドリ	ウ	カワウ	1	1		2					2	
4	ペリカン	サギ	アオサギ	1			1					1	
5	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	6			6	4			4	10	
6			ツツドリ	1			1					1	
7	タカ	ミサゴ	ミサゴ					1			1	1	
8		タカ	トビ							1	1	1	
9	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1			1					1	
10	キツツキ	キツツキ	コゲラ	6	2	4	12	1	2		3	15	
11			アオゲラ	7	1		8	1	1		2	10	
12	スズメ	カササギヒタキ	サンコウチョウ	3			3					3	
13		カラス	カケス		1		1		1		1	2	
14			ハシブトガラス	2	4	7	13	1	3	3	7	20	
15		シジュウカラ	ヤマガラ	4	4	12	20	9			9	29	
16			ヒガラ			2	2					2	
17			シジュウカラ	7	5	8	20	3	3		6	26	
18		ヒヨドリ	ヒヨドリ	11	17	22	50	9	9	4	22	72	
19		ウグイス	ウグイス	10	2	3	15	10		1	11	26	
20			ヤブサメ	2	1		3					3	
21		エナガ	エナガ	12	8	34	54	7			7	61	
22		ムシクイ	オオムシクイ					1			1	1	
23			センダイムシクイ	10			10					10	
24		メジロ	メジロ	10	19	59	88	16	29	2	47	135	
25		ヒタキ	クロツグミ	2			2	2			2	4	
26			シロハラ							1	1	1	
27			ルリビタキ			11	11			2	2	13	
28			ジョウビタキ			1	1					1	
29			オオルリ	3			3					3	
30		セキレイ	キセキレイ	1		2	3					3	
31		アトリ	イカル	2	1		3					3	
32		ホオジロ	ホオジロ	1			1	1			1	2	
33			アオジ			4	4					4	
34	キジ	キジ	コジュケイ						3		3	3	
35	スズメ	チメドリ	ソウシチョウ	8		8	16	8	11		19	35	
	10 目	23 科	35 種	種数	23	14	15	30	15	10	7	21	35
				個体数	111	70	178	359	74	64	14	152	511

⑤ 定点観察法による鳥類の生息個体数

定点観察法による調査の結果、5 目 19 科 29 種 273 羽の鳥類を確認した。各地点における調査回ごとの記録種及び個体数を表 6-6 に示す。P1 では 19 種 77 羽、P2 では 23 種 196 羽を確認した。P1 はダムサイトであり、見通しがよく、飛来する鳥の目視や囀りの記録がしやすい場所であったが、特に秋期は記録する鳥が少なかった。冬季には近年繁殖地が北上を続けているサンショウクイの亜種リュウキュウサンショウクイを複数羽記録した。P2 は周囲が低い樹木に覆われ、また周りを見渡せる空間も広がっているため、オオタカやノスリが記録でき、秋期には渡りの通過と思われるコサメビタキも記録できた。

表 6-6 調査回・ルート毎の確認個体数

No.	目 名	科 名	種 名	P1				P2				総計	
				繁殖期	秋期	越冬期	計	繁殖期	秋期	越冬期	計		
1	ハト	ハト	キジバト	1	1		2			1	1	3	
2	タカ	タカ	ツミ			1	1					1	
3			オオタカ						1	1	1		
4			ノスリ						1	1	1		
5	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1			1	1			1	2	
6	キツツキ	キツツキ	コゲラ					1		7	8	8	
7			アオゲラ			1	1		1	1	2		
8	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ			4	4					4	
9		モズ	モズ			1	1					1	
10		カラス	ハシブトガラス	1	1		2		11	6	17	19	
11		シジュウカラ	ヤマガラ	1		4	5	7		4	11	16	
12			シジュウカラ	1		5	6			3	3	9	
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	8	4	7	19	13	2	17	32	51	
14		ウグイス	ウグイス	5		1	6	5	1	3	9	15	
15			ヤブサメ					1			1	1	
16		エナガ	エナガ	1		6	7	10		13	23	30	
17		ムシクイ	センダイムシクイ	3			3	2			2	5	
18		メジロ	メジロ	5	4	4	13	15	5	43	63	76	
19		ミソサザイ	ミソサザイ	1			1					1	
20		ヒタキ	シロハラ							5	5	5	
21			ジョウビタキ			1	1					1	
22			コサメビタキ						1		1	1	
23			キビタキ	1			1	5			5	6	
24			オオルリ	2			2	1			1	3	
25		セキレイ	キセキレイ			1	1					1	
26		アトリ	カワラヒワ							1	1	1	
27			ウソ							3	3	3	
28		ホオジロ	ホオジロ					3			3	3	
29		チメドリ	ソウシチョウ					1	1	1	3	3	
	5 目	19 科	29 種	種数	13	4	12	19	13	6	16	23	29
				個体数	31	10	36	77	65	21	110	196	273

⑥ 重要種

現地調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は3目5科8種であった。なお、サンショウクイは環境省及び大阪府いずれも絶滅危惧Ⅱ類（VU）該当種であるが、これは亜種サンショウクイに対して指定されたもので、今回冬期に記録したサンショウクイは無指定の亜種リュウキュウサンショウクイであるため、このリストには入れていない。確認された重要種を表6-7、確認位置を図6-2に示す。

今回の調査では、種の保存法に該当する鳥は確認できなかった。また、環境省レッドリスト記載種は3種、大阪府レッドリスト記載種は6種確認した。なお、重要種のうち、繁殖期に確認したものはツツドリ、ミサゴ、オオムシクイ、センダイムシクイの4種であった。

表 6-7 確認された重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
2	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		NT	
3		タカ	<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU
4			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		NT	NT
5			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
6	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ		DD	
7			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
8		ヒタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
計	3 目	5 科	8 種		—	3 種	6 種

種の保存法 国内希少：国内希少野生動植物種

レッドリスト VU：絶滅危惧Ⅱ類 絶滅の危険が増大している種

NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

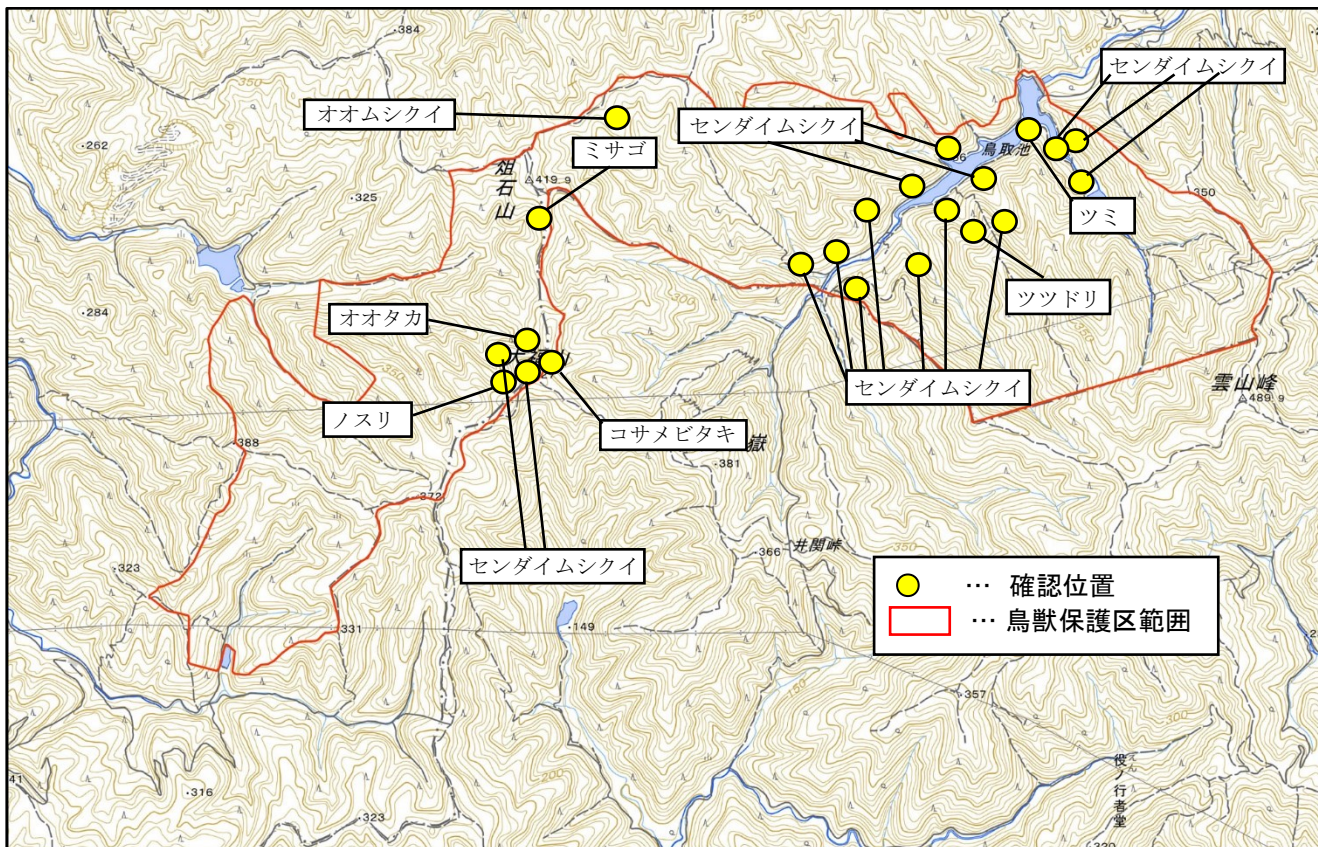


図 6-2 重要種確認位置図(鳥類)

⑦ 哺乳類確認種

現地調査の結果、3 目 4 科 5 種の哺乳類を確認した。確認された哺乳類を表 6-8 に示す。学名・分類群・配列は「日本の哺乳類 改定 2 版」（東海大学出版会、2008）に従った。

表 6-8 現地調査 哺乳類確認種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	確認状況
1	ウシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	掘り跡
2	ネズミ	ネズミ	<i>Apodemus sp.</i>	アカネズミ類	目撃
3		リス	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス	食痕
4	ネコ	イタチ	<i>Martes melampus</i>	ニホンテン	糞
5			<i>Meles anakuma</i>	ニホンアナグマ	糞
合計	3 目	4 科	5 種		

⑧ 哺乳類重要種

文献・資料調査で確認された哺乳類のうち、重要種に該当する種はニホンアナグマの 1 目 1 科 1 種であった。確認された重要種を表 7-9 に示す。

表 6-9 現地調査 哺乳類重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	文化財 保護法	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	ネコ	イタチ	<i>Meles anakuma</i>	ニホンアナグマ				NT
計	1 目	1 科	1 種		—	—	—	1 種

6-2 文献調査結果

文献調査に使用したそれぞれの文献・資料の記載概況を表 6-10 に示す。

表 6-10 文献概要

文献 No.	文献・情報名	文献・情報の内容
文献 1	大阪府鳥類目録 2016	2002 年 4 月～2016 年 3 月までの大阪支部報、むくどり通信に記載された記録から作成された地域別鳥類リストのうち、紀泉高原（俎石山山麓）を参照。
文献 2	自然と本の会聞き取り調査	1998 年より継続的に活動を行っている阪南市自然と本の会が鳥取ダム周辺での観察会を毎年実施しており、令和 5 年 6 月 9 日にその記録の聞き取り調査を行った。
文献 3	泉南けもの道 第 17 回 正真正銘のけもの道の果て・鳥取池（阪南市桑畑）でアカゲラとヤマセミを見た。	泉南地域を巡視区域としている鳥獣保護管理員（当時）風間美穂氏が大阪鳥類研究グループ会報に連載していた記事のうち、第 17 回（平成 30 年の会報第 130 号）に書かれた鳥取池での観察の記事を参照。

① 鳥類確認種

文献調査の結果、16 目 40 科 99 種の鳥類を確認した。確認種を表 6-12 に示す。文献別では、文献 1 で 83 種、文献 2 で 77 種、文献 3 で 6 種が確認された。

文献調査で確認した鳥類の渡り区分は、留鳥 47 種、夏鳥 16 種、冬鳥 25 種、旅鳥 8 種、外来種 3 種であった（表 6-11、図 6-3）。現地調査に比べ、冬鳥や旅鳥の占める割合が高く、それぞれ 25% と 8% であった。これは、留鳥や夏鳥は繁殖期の囀りなど目立つ行動で記録されやすいのに比べ、旅鳥や冬鳥は年によって渡来の有無や渡来数の増減があるために、本調査のような単年度の各季節 1 回の調査では記録がどうしても少なくなること、短期間の滞在で渡去してしまう場合が多い旅鳥は、集積された文献・資料でのみ確認される種が少なくないためであると思われる。なお、渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録 2016」（2017 年 3 月 31 日、日本野鳥の会大阪支部）に従った。

表 6-11 渡り区分ごとの種数とその割合

渡り区分	種数	割合
留鳥	47 種	47%
夏鳥	16 種	16%
冬鳥	25 種	25%
旅鳥	8 種	8%
外来種	3 種	3%
合 計	99 種	100%

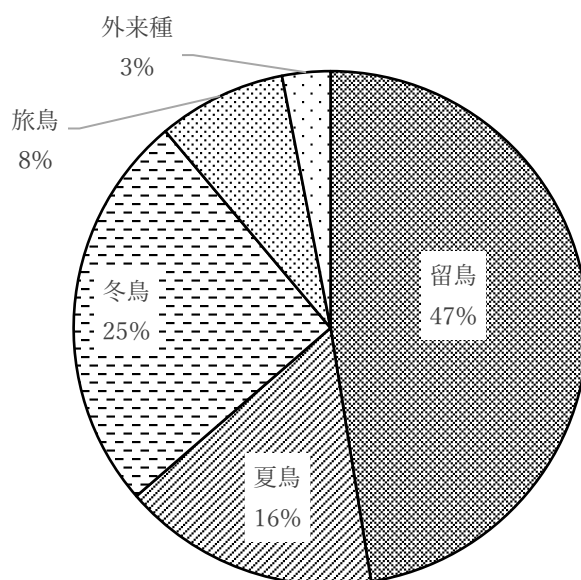


図 6-3 文献調査 渡り区分の内訳

表 6-12 (1) 文献調査 鳥類確認種 (1/2)

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ	○	○		留鳥
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ	○	○		留鳥
3	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ	○			冬鳥
4			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ		○		冬鳥
5			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ	○			冬鳥
6			<i>Anas zonorhyncha</i>	カルガモ		○		留鳥
7			<i>Anas crecca</i>	コガモ		○		冬鳥
8			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ		○		冬鳥
9	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ	○	○		留鳥
10	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○		留鳥
11			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト	○	○		留鳥
12	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○			留鳥
13	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ	○	○		夏鳥
14			<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ	○	○		留鳥
15			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○	○		留鳥
16			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ	○	○		留鳥
17			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ	○	○		留鳥
18	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン		○		留鳥
19	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	ジュウイチ		○		旅鳥
20			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○	○		夏鳥
21			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○	○		夏鳥
22	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ	○			旅鳥
23			<i>Apus nipalensis</i>	ヒメアマツバメ		○		留鳥
24	チドリ	シギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ		○		留鳥
25	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○	○		留鳥
26		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ	○			夏鳥
27			<i>Milvus migrans</i>	トビ	○	○		留鳥
28			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ	○			留鳥
29			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ	○	○		冬鳥
30			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ	○	○		留鳥
31			<i>Butastur indicus</i>	サシバ	○			夏鳥
32			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ	○			冬鳥
33	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク		○		冬鳥
34	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○	○		留鳥
35			<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			○	留鳥
36	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○		留鳥
37			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ	○	○		留鳥
38			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ	○		○	冬鳥
39			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○		留鳥
40	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ	○	○		留鳥
41			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	○	○		留鳥
42	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ	○	○		夏鳥
43		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		○		夏鳥
44		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○	○	○	夏鳥
45		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ	○	○		留鳥
46		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス	○	○		留鳥
47			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス	○	○		留鳥
48			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○		留鳥
49		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ	○	○		冬鳥
50		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○			留鳥
51			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ	○	○		留鳥
52			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○		留鳥
53		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ	○	○		夏鳥
54			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ	○	○		夏鳥
55			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ	○	○		夏鳥
56		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○		留鳥
57		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○		留鳥
58			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○			夏鳥
59		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○		留鳥
60		ムシクイ	<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ	○	○		旅鳥

表 6-12 (2) 文献調査 鳥類確認種 (2/2)

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	文献 1	文献 2	文献 3	渡り 区分
61	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○	○		夏鳥
62		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○		留鳥
63		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ		○		留鳥
64		レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク	○			冬鳥
65		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○			留鳥
66		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ	○			留鳥
67		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ	○	○		冬鳥
68			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○		○	夏鳥
69			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ	○			冬鳥
70			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ	○	○		旅鳥
71			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ	○	○		冬鳥
72			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ	○	○		旅鳥
73			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ	○	○		冬鳥
74			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ	○	○		冬鳥
75			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ		○		旅鳥
76			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ	○	○		留鳥
77			<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ		○		旅鳥
78			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ	○	○		旅鳥
79			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○	○	○	夏鳥
80			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○	○	○	夏鳥
81		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ	○			冬鳥
82		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ	○	○		留鳥
83		セキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○	○		留鳥
84			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ	○	○		留鳥
85			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ	○	○		留鳥
86			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ	○			冬鳥
87		アトリ	<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ	○	○		留鳥
88			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ	○			冬鳥
89			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ		○		冬鳥
90			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ	○	○		冬鳥
91			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○		留鳥
92		ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○	○		留鳥
93			<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ	○	○		冬鳥
94			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ	○			冬鳥
95			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ	○	○		冬鳥
96			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ	○			冬鳥
97	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ	○	○		外来
98	ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト (ドバト)		○		外来
99	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○		外来
合計	16 目	40 科	99 種		83 種	77 種	6 種	—

- ・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。
- ・渡り区分の分類は、「大阪府鳥類目録2016」(2017年3月31日, 日本野鳥の会大阪支部)に従った。

② 鳥類重要種

文献調査で確認された鳥類のうち、重要種に該当する種は 10 目 17 科 24 種であった。確認された重要種を表 6-13 に示す。

今回の調査で、種の保存法記載種が 2 種、環境省レッドリスト記載種が 10 種、大阪府レッドリスト記載種が 19 種確認された。

表 6-13 確認された重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	種の 保存法	環境省 RL	大阪府 RL
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ		DD	
2	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ		VU	VU
3	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ			NT
4	チドリ	シギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ			NT
5	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ		NT	
6		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ		NT	CR+EN
7			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			VU
8			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ		NT	
9			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ		NT	NT
10			<i>Butastur indicus</i>	サシバ		VU	CR+EN
11			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			NT
12	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク			DD
13	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ			NT
14	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ			NT
15	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ	国内	VU	
16	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ	国内	EN	
17		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ		VU	VU
18		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ			NT
19		ムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ			NT
20		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ			NT
21		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ			NT
22			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ			VU
23		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ			NT
24			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ			NT
計	10 目	17 科	24 種		2 種	10 種	19 種

CR+EN：絶滅危惧I類 絶滅の危機に瀕している種
VU：絶滅危惧II類 絶滅の危険が増大している種
NT：準絶滅危惧種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種
DD：情報不足 評価するだけの情報が不足している種

③ 哺乳類確認種

文献・資料調査の結果、哺乳類の記録は確認されなかった。

7. まとめ

1. 現地調査と文献調査により、16 目 40 科 101 種の鳥類、3 目 4 科 5 種の哺乳類が確認され、そのうち鳥類 25 種が重要種であった（表 7-1～3）。
2. 現地調査の結果、10 目 26 科 45 種の鳥類を確認した。各調査回の確認種数は繁殖期が 28 種、秋期が 17 種、越冬期が 26 種であった。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥 56%、夏鳥 20%、冬鳥 16%、旅鳥 4%、外来種 4%であった。繁殖を確認した種（A ランク）は 2 種、繁殖の可能性が高い種（B ランク）は 21 種であった。

ラインセンサス法で記録した鳥類は 10 目 23 科 35 種 511 羽であり、R1 では 30 種 359 羽、R2 では 21 種 152 羽を記録した。定点観察法で記録した鳥類は 5 目 19 科 29 種 273 羽であり、P1 では 19 種 77 羽、P2 では 23 種 196 羽を記録した。

哺乳類は 3 目 4 科 5 種を記録し、このうち重要種はニホンアナグマ 1 種であった。

3. 文献調査の結果、16 目 40 科 99 種の鳥類が確認された。文献別では、文献 1 で 83 種、文献 2 で 77 種、文献 3 で 6 種が確認された。また、確認した鳥類の渡り区分の内訳は、留鳥 47%、夏鳥 16%、冬鳥 25%、旅鳥 8%、外来種 3%であった。現地調査に比べ、冬鳥や旅鳥の占める割合が高く、それぞれ 25%と 8%であった。
4. 現地調査における重要種は、鳥類 3 目 6 科 9 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種であった。この内訳は、鳥類では環境省レッドリスト記載種 4 種、大阪府レッドリスト記載種 7 種、哺乳類は大阪府レッドリスト記載種 1 種であった。また、文献調査における重要種は鳥類 10 目 17 科 24 種であった。この内訳は鳥類では種の保存法記載種 2 種、環境省レッドリスト記載種 10 種、大阪府レッドリスト記載種 19 種であった。
5. 現地調査と文献調査で記録されたミサゴ科 1 種、タカ科 7 種、フクロウ科 1 種、ハヤブサ科 2 種の計 11 種は他の生物を捕食する食物連鎖の最上位に位置する種であり、本地域がダム湖、植林、二次林などこれらの鳥類の生息を可能にする豊かで多様性に富んだ環境であることを示しており、紀泉高原鳥獣保護区は府域の鳥類の生息地として貴重な地域であると言える。
6. 紀泉高原鳥獣保護区は、鳥獣の生息地として重要であるだけでなく、府民がハイキングや森林浴などで手軽に利用できる貴重な場所である。隣接する和歌山県の紀泉高原鳥獣保護区と一体として、引き続き多様な自然環境を維持することが必要であると考えられる。

表 7-1 (1) 現地調査・文献調査の鳥類確認種 (1/2)

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	現地調査			文献調査
					繁殖期	秋期	越冬期	
1	キジ	キジ	<i>Syrnaticus soemmerringii</i>	ヤマドリ				○
2			<i>Phasianus colchicus</i>	キジ				○
3	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ				○
4			<i>Anas penelope</i>	ヒドリガモ				○
5			<i>Anas platyrhynchos</i>	マガモ				○
6			<i>Anas zonorhynchos</i>	カルガモ				○
7			<i>Anas crecca</i>	コガモ				○
8			<i>Aythya ferina</i>	ホシハジロ				○
9			<i>Aythya fuligula</i>	キンクロハジロ			○	
10	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>	カイツブリ				○
11	ハト	ハト	<i>Streptopelia orientalis</i>	キジバト	○	○	○	○
12			<i>Treron sieboldii</i>	アオバト				○
13	カツオドリ	ウ	<i>Phalacrocorax carbo</i>	カワウ	○	○		○
14	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ				○
15			<i>Nycticorax nycticorax</i>	ゴイサギ				○
16			<i>Ardea cinerea</i>	アオサギ	○			○
17			<i>Ardea alba</i>	ダイサギ				○
18			<i>Egretta garzetta</i>	コサギ				○
19	ツル	クイナ	<i>Gallinula chloropus</i>	バン				○
20	カッコウ	カッコウ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	ジュウイチ				○
21			<i>Cuculus poliocephalus</i>	ホトトギス	○			○
22			<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○			○
23	アマツバメ	アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	アマツバメ				○
24			<i>Apus nipalensis</i>	ヒメアマツバメ				○
25	チドリ	シギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ				○
26	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○			○
27		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ				○
28			<i>Milvus migrans</i>	トビ			○	○
29			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○	○
30			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ				○
31			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	○
32			<i>Butastur indicus</i>	サシバ				○
33			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	○
34	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク				○
35	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	カワセミ	○			○
36			<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ				○
37	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	コゲラ	○	○	○	○
38			<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ				○
39			<i>Dendrocopos major</i>	アカゲラ				○
40			<i>Picus awokera</i>	アオゲラ	○	○	○	○
41	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco tinnunculus</i>	チョウゲンボウ				○
42			<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ				○
43	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ				○
44		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ			○	○
45		カササギヒタキ	<i>Terpsiphone atrocaudata</i>	サンコウチョウ	○			○
46		モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	モズ			○	○
47		カラス	<i>Garrulus glandarius</i>	カケス		○		○
48			<i>Corvus corone</i>	ハシボソガラス				○
49			<i>Corvus macrorhynchos</i>	ハシブトガラス	○	○	○	○
50		キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	キクイタダキ				○
51		シジュウカラ	<i>Poecile varius</i>	ヤマガラ	○	○	○	○
52			<i>Periparus ater</i>	ヒガラ			○	○
53			<i>Parus minor</i>	シジュウカラ	○	○	○	○
54		ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	ツバメ				○
55			<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ				○
56			<i>Delichon dasypus</i>	イワツバメ				○
57		ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	ヒヨドリ	○	○	○	○
58		ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	ウグイス	○	○	○	○
59			<i>Urosphena squameiceps</i>	ヤブサメ	○	○		○
60		エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	エナガ	○	○	○	○

表 7-1 (2) 現地調査・文献調査の鳥類確認種 (2/2)

No.	目名	科名	学名	種名	現地調査			文献調査
					繁殖期	秋期	越冬期	
61	スズメ	ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○			
62			<i>Phylloscopus xanthodryas</i>	メボソムシクイ				○
63			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○			○
64		メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	メジロ	○	○	○	○
65		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ				○
66		レンジャク	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジャク				○
67		ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	ミソサザイ	○			○
68		ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	ムクドリ				○
69	ヒタキ		<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ				○
70			<i>Turdus cardis</i>	クロツグミ	○			○
71			<i>Turdus pallidus</i>	シロハラ			○	○
72			<i>Turdus chrysolaus</i>	アカハラ				○
73			<i>Turdus naumanni</i>	ツグミ				○
74			<i>Luscinia akahige</i>	コマドリ				○
75			<i>Tarsiger cyanurus</i>	ルリビタキ			○	○
76			<i>Phoenicurus aureus</i>	ジョウビタキ			○	○
77			<i>Saxicola torquatus</i>	ノビタキ				○
78			<i>Monticola solitarius</i>	イソヒヨドリ				○
79			<i>Muscicapa sibirica</i>	サメビタキ				○
80			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		○		○
81			<i>Ficedula narcissina</i>	キビタキ	○			○
82			<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	オオルリ	○			○
83		イワヒバリ	<i>Prunella rubida</i>	カヤクグリ				○
84		スズメ	<i>Passer montanus</i>	スズメ				○
85	セキレイ		<i>Motacilla cinerea</i>	キセキレイ	○		○	○
86			<i>Motacilla alba</i>	ハクセキレイ				○
87			<i>Motacilla grandis</i>	セグロセキレイ				○
88			<i>Anthus hodgsoni</i>	ビンズイ				○
89	アトリ		<i>Chloris sinica</i>	カワラヒワ			○	○
90			<i>Carduelis spinus</i>	マヒワ				○
91			<i>Uragus sibiricus</i>	ベニマシコ				○
92			<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	ウソ			○	○
93			<i>Eophona personata</i>	イカル	○	○		○
94			<i>Emberiza cioides</i>	ホオジロ	○			○
95	ホオジロ		<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ				○
96			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ				○
97			<i>Emberiza spodocephala</i>	アオジ			○	○
98			<i>Emberiza variabilis</i>	クロジ				○
99	キジ	キジ	<i>Bambusicola thoracicus</i>	コジュケイ		○		○
100	ハト	ハト	<i>Columba livia</i>	カワラバト (ドバト)				○
101	スズメ	チメドリ	<i>Leiothrix lutea</i>	ソウシチョウ	○	○	○	○
計	16 目	40 科	101 種		28 種	17 種	26 種	99 種

・分類及び配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(2012年, 日本鳥学会)に従った。

表 7-2 現地調査・文献調査の哺乳類確認種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	現地調査			文献調査
					繁殖期	秋期	越冬期	
1	ウシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	イノシシ	○	○	○	
2	ネズミ	ネズミ	<i>Apodemus sp.</i>	アカネズミ類		○		
3		リス	<i>Sciurus lis</i>	ニホンリス			○	
4	ネコ	イタチ	<i>Martes melampus</i>	ニホンテン			○	
5			<i>Meles anakuma</i>	ニホンアナグマ			○	
3 目		4 科	5 種		1 種	2 種	4 種	—

表 7-3 現地調査・文献調査の鳥類重要種

No.	目 名	科 名	学 名	種 名	現地調査			文献調査	種の保存法	環境省 RL	大阪府 RL
					繁殖期	秋期	越冬期				
1	カモ	カモ	<i>Aix galericulata</i>	オシドリ				○		DD	
2	ペリカン	サギ	<i>Gorsachius goisagi</i>	ミゾゴイ				○		VU	VU
3	カッコウ	カッコウ	<i>Cuculus optatus</i>	ツツドリ	○			○			NT
4	チドリ	シギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	イソシギ				○			NT
5	タカ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	ミサゴ	○			○		NT	
6		タカ	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	ハチクマ				○		NT	CR+EN
7			<i>Accipiter gularis</i>	ツミ			○	○			VU
8			<i>Accipiter nisus</i>	ハイタカ				○		NT	
9			<i>Accipiter gentilis</i>	オオタカ			○	○		NT	NT
10			<i>Butastur indicus</i>	サシバ				○		VU	CR+EN
11			<i>Buteo buteo</i>	ノスリ			○	○			NT
12	フクロウ	フクロウ	<i>Otus lempiji</i>	オオコノハズク				○			DD
13	ブッポウソウ	カワセミ	<i>Megaceryle lugubris</i>	ヤマセミ				○			NT
14	キツツキ	キツツキ	<i>Dendrocopos leucotos</i>	オオアカゲラ				○			NT
15	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	ハヤブサ				○	国内	VU	
16	スズメ	ヤイロチョウ	<i>Pitta nympha</i>	ヤイロチョウ				○	国内	EN	
17		サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	サンショウクイ				○		VU	VU
18		ツバメ	<i>Hirundo daurica</i>	コシアカツバメ				○			NT
19		ムシクイ	<i>Phylloscopus examinandus</i>	オオムシクイ	○					DD	
20			<i>Phylloscopus coronatus</i>	センダイムシクイ	○			○			NT
21		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>	セッカ				○			NT
22		ヒタキ	<i>Zoothera dauma</i>	トラツグミ				○			NT
23			<i>Muscicapa dauurica</i>	コサメビタキ		○		○			VU
24		ホオジロ	<i>Emberiza rustica</i>	カシラダカ				○			NT
25			<i>Emberiza elegans</i>	ミヤマホオジロ				○			NT
計	10 目	17 科	25 種		4 種	1 種	3 種	24 種	2 種	11 種	19 種

CR+EN：絶滅危惧I類

VU：絶滅危惧II類

NT：準絶滅危惧種

DD：情報不足

絶滅の危機に瀕している種

絶滅の危険が増大している種

現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては絶滅危惧に移行する可能性のある種

評価するだけの情報が不足している種

8. 参考文献

1. 「環境省レッドリスト 2020」(2020 年, 環境省)
2. 「大阪府レッドリスト 2014」(2014 年, 大阪府)
3. 「「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令の一部を改正する政令」の閣議決定について」(2019 年 1 月, 環境省報道発表資料)
4. 「大阪府鳥類目録 2016」(2016 年, 日本野鳥の会大阪支部)
5. 「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(2012 年, 日本鳥学会)
6. 「全国鳥類繁殖分布調査における繁殖ランク」(2014 年, NPO 法人バードリサーチ)
<https://bird-atlas.jp/map.html#yoshi>
7. 「泉南けもの道 第 17 回 正真正銘のけもの道の果て・鳥取池(阪南市桑畑)でアカゲラとヤマセミを見た.」(2018 年, 大阪鳥類研究グループ会報, 風間美穂)